
パソナ 「未来の教室 in 釜石」

経済産業省「未来の教室」実証事業

『未来の教室 in 釜石』

サマリ報告



P A S O N A

未来の教室in釜石で得られた効果

■参加者のプログラム参加後のネクストアクション

- 参加者20名全員がマイプロジェクトを作成しネクストアクションを設定、うち2人が釜石での複業を開始、2人が新規事業を社内で立案・実行、2人が未来の教室in釜石を企業研修として導入する等の高い効果があった。

- ・企業様向けの効果：社内でのイントレプレナー育成
- ・自治体様向けの効果：地域との複業による関係人口創出

■効果測定の伸び

- チェックイン前、フィールドワーク①後、フィールドワーク②後の3度測定したEQの変遷データでは、課題解決力、多様性の中で協働する力、周囲を巻き込み動かす力、自信/自己効力感/自己肯定感、圧倒的な当事者意識等、経産省チェンジメーカーの要素中10個中8個の項目で大幅に能力UPを図った。

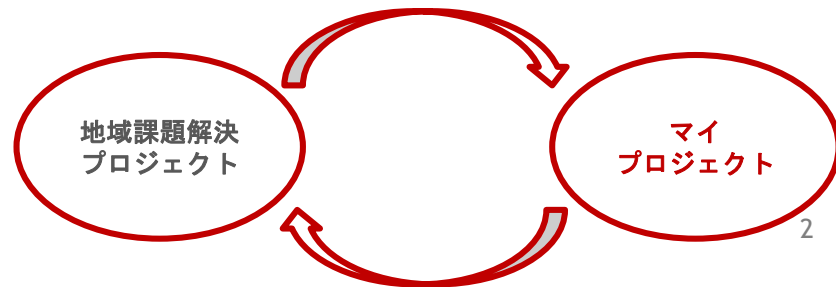
※11~13ページ目参照

■効果の背景

- 都市部の企業に勤める20~50代の会社員、人事担当者、人材開発担当者等の参加者が、釜石でローカルベンチャーと協働し、地域課題を解決に取り組む。プログラムを通して、自身のマイプロジェクト・ネクストアクションを作成。プログラム終了後の自身のキャリア形成につながり、高い効果を生み出した。

※14~15ページ参照

- 関わる人（同僚ではなく、プログラム参加者等多様なメンバー）・取り組むテーマ（普段の業務ではなく地域課題に取り組む）・業務を行う場所（オフィスではなく地方での活動）を変えることにより、参加者の置かれている環境から解放。チェンジメーカーとして必要な資質を身に着けた。
- マイプロジェクトを作成するにあたり、自分のキャリアについて自身で創造、意思決定を行うことにより、チェンジメーカーとしての必要な意思決定力と創造力を身に着けた。



背景とプログラムの狙い

■プログラム実施の社会的背景

- 「第4次産業革命」「人生100年時代」「グローバル化」の進展により、社会構造や企業等の組織課題も変化し、個人に求められる能力（スキル、マインド等）も加速度的に変化している。

■世界的な動き

- 各国で就学前・初中等・高等・社会人の各段階における、革新的な能力開発技法（EdTech）を活用した「学びの革命」が進展。

■日本における現状・課題

- 様々な人を巻き込み解決していく必要があるため**学びの絶好のテーマである社会課題**は、地方を中心に山積している。

■本事業の目的

- 現実の社会課題を題材とした「**課題解決・変革型人材（チェンジ・メーカー）**」の育成プログラムの開発とその普及・拡大

■ターゲット

- 都市部の企業に勤める20～50代の会社員、人事担当者、人材開発担当者。

■プログラムの狙い

- **釜石での地域課題解決プロジェクトを通して、自身のマイプロジェクトを作成して**、研修参加者等が組織と多様な関わり方（複業・兼業、起業、ボランティア等）により活躍することで、社会にキャリアオーナーシップ、リカレント教育等の意識が浸透。結果として、世界や日本の変革者（チェンジメーカー）として個人が活躍し続ける社会を創出する。

■伸ばしたいスキル

- 課題発見力/設定力、多様性の中で協働する力、周囲を巻き込み動かす力、自信/自己効力感/自己肯定感、圧倒的な当事者意識等

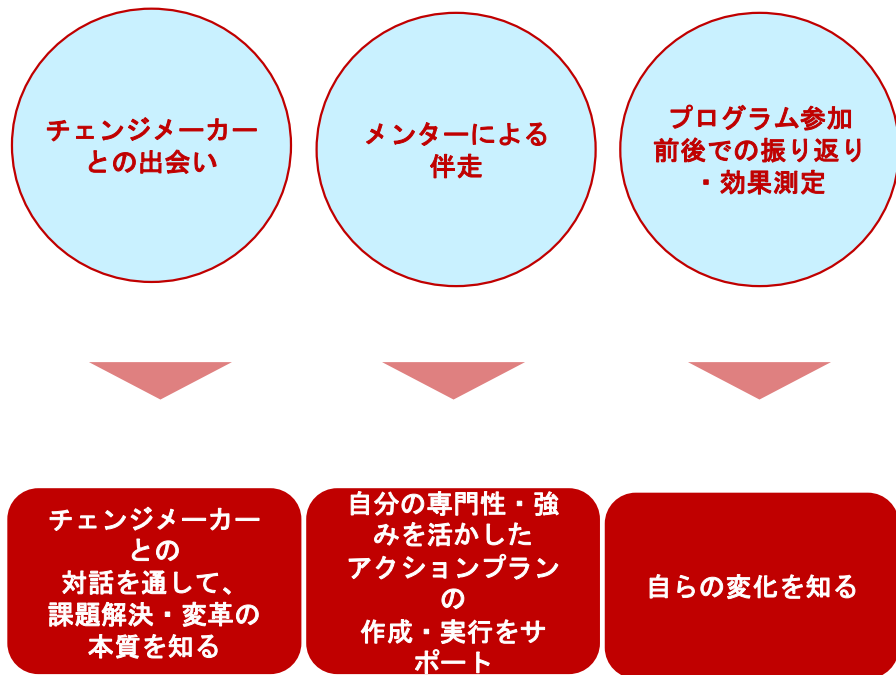
実施内容：プログラム設計

■プログラムの概要・スケジュール

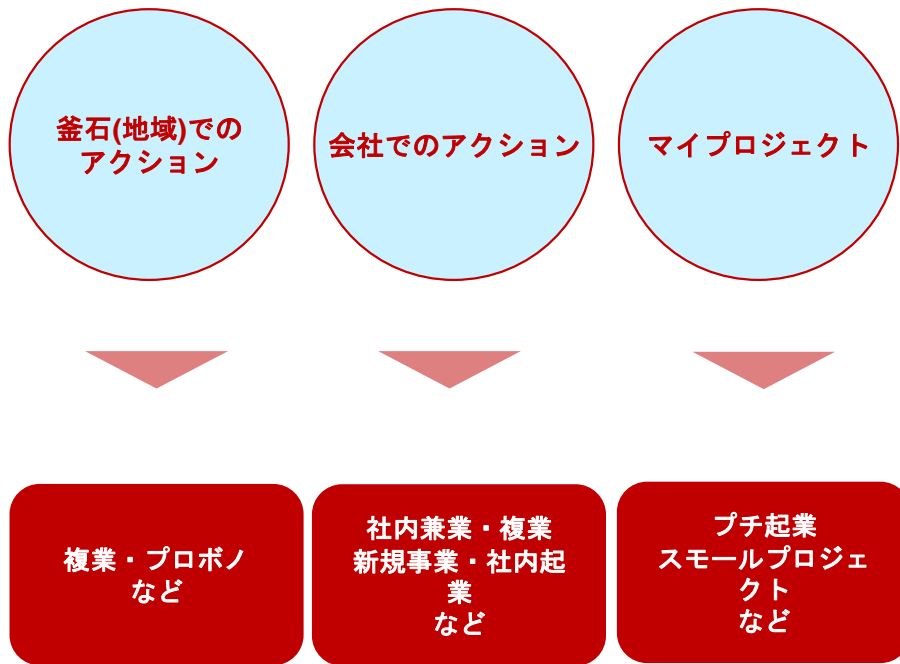
内容	日付	場所	詳細	工夫点
第1回 チェックイン 研修 (講義、ワークショップ)	2018年 10月27日(土) 10月28日(日)	東京	オリエンテーション、チームビルディング、課題設定・発見。 ワークショップ、フィールドワークの行動計画策定等を行う。	3ページに参照。 全工程における、メンターの伴走。 プログラム参加後のアクションプランを常に考え続ける。 チェックイン前、フィールドワーク①②の後、EQにて効果測定を行った。
第2回 フィールドワーク①	11月16日(金)~ 11月18日(日)	釜石	釜石での2回のフィールドワークを通じてチェンジメーカーとの出会い、釜石市の震災復興に関する取り組みを知るとともに、受け入れ先のローカルベンチャーとの意見交換、課題の設定・解決に取り組む。	
第3回 フィールドワーク②	12月7日(金)~ 12月9日(日)	釜石		
第4回 チェックアウト研修 (講義、ワークショップ)	2019年 1月12日(土)	東京	プログラム全体を振り返り、自身の成長・課題を見つめ直し、自身の今後のキャリアを思い描く。	

実施内容：プログラム設計（プログラムの特徴と参加後のアクションイメージ）

■プログラムの特徴



■参加後のアクションイメージ



実施内容：参加者（募集・選考）

■参加者募集

- ・1ページ目記載のターゲットに対して以下のチャンネルにて募集広報実施
- ・応募者のパソナグループからのご案内による応募多数
- ・参加者公募はFacebookからの流入多数

実施施策

パソナグループからのご案内（DM）

「未来の教室in釜石」のFacebookページ

Facebook広告

会社からの紹介

連携会社からのご案内
（（株）Ridilover、キャプラン（株））

経産省・BCGの「未来の教室」プログラム案内

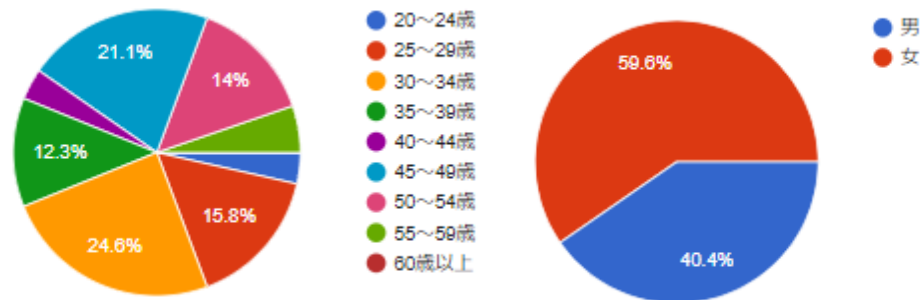
知人・友人の紹介

合計

■選考

- ・年齢男女のバランス、プログラム参加後の出口を見据えた参加目的が整理されているかを考慮し、選考。
- ・参加動機、雇用形態、年代の異なる多様な応募者を獲得（計52名）
- ・応募者のうち女性が約6割と女性比率が高い

■応募者の年代・性別



実施内容：参加者（プログラム参加者概要）

■プログラム参加者概要（20名）

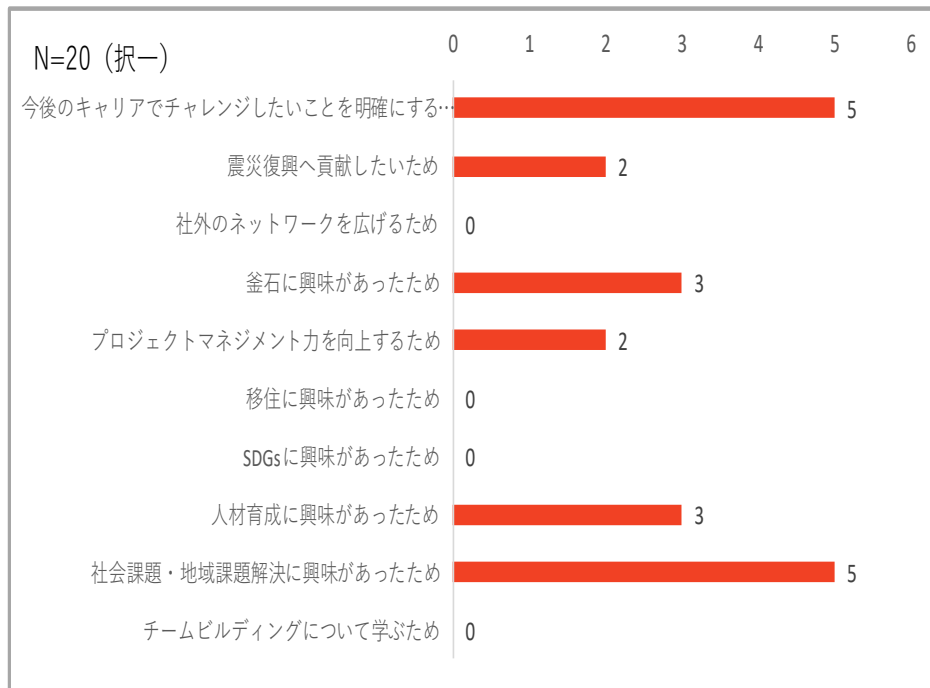
名前	年代	性別	就業先分類
A	40代	女性	NPO法人
B	30代	女性	サービス業
C	20代	男性	教育・学習支援業
D	20代	男性	サービス業
E	20代	女性	学術研究, 専門・技術サービス業
F	50代	女性	サービス業
G	30代	男性	金融, 保険業
H	30代	男性	製造業
I	30代	男性	学術研究, 専門・技術サービス業
J	40代	女性	サービス業
K	30代	女性	情報通信業
L	50代	女性	サービス業
M	20代	男性	公務
N	40代	男性	生活関連サービス業
O	30代	女性	無職
P	40代	男性	学術研究, 専門・技術サービス業
Q	30代	男性	製造業
R	30代	男性	公務
S	30代	女性	サービス業
T	40代	男性	卸売業

実施内容：参加者プログラム参加者の参加目的と認知経路

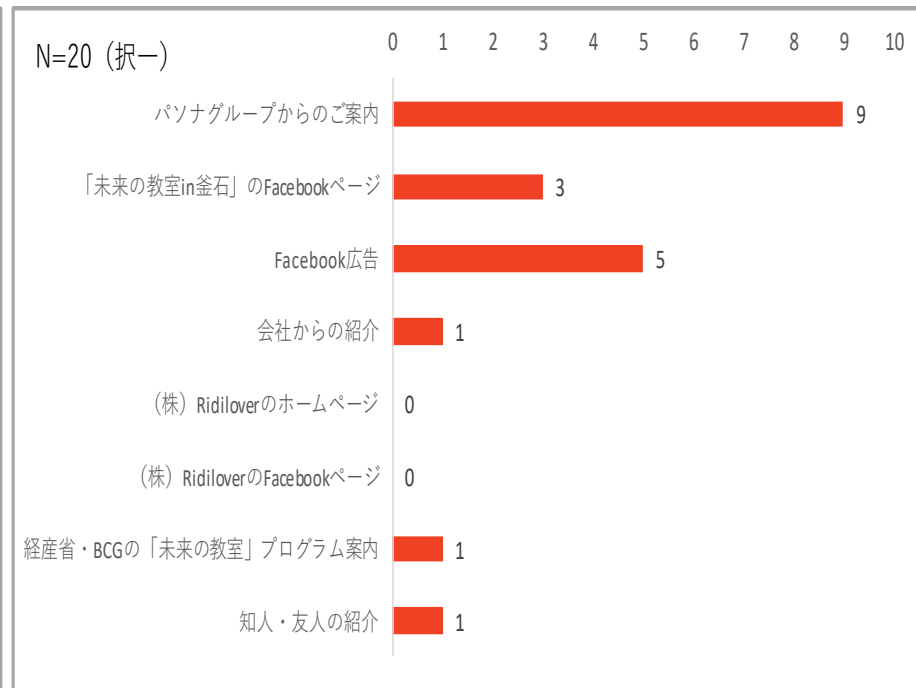
■プログラム参加者の傾向

- ・ 社会課題解決や地域課題解決に興味がある方、今後のキャリアを見つめ直したい方で半数を占める。
- ・ 認知経路は、パナソクからの案内が9名、Facebookからの流入が8名であった。

参加目的



認知経路



実施内容：受入先

■ 受入先：釜石ローカルベンチャーコミュニティ(起業型地域おこし協力隊)活動テーマ、内容

- 釜石市において地域の課題・資源等を起点に事業創造を目指す実践者である釜石ローカルベンチャーコミュニティメンバーと参加者が協働。
- 20名の参加者が4チームに分かれ、ローカルベンチャーメンバーそれぞれの事業推進をテーマに地域課題設定・解決に取り組む。
- 地域で自ら課題を設定し解決に取り組むメンバーと協働し、することで、課題設定・解決力、当事者意識、多様性の中で協働する力を養う。

福田 学 / 観光×サイクルツーリズム

活動の経緯

母の地元であり、被災地でもある岩手県の復興への貢献と新しい生き方を求め、オープンシティの釜石市でローカルベンチャーズに応募。自然やスポーツなど釜石の魅力をまると体感できる観光事業を目指す。

活動内容

釜石からガイドツアーと地域体験コンテンツを組み合わせた事業のモデルを創出し全国に発信する。地域の多くの方と繋がり、釜石の魅力を発掘。将来的には企業などと連携しながら観光コンテンツとして三陸地域で広く事業展開できる体制を整えていく。



吉野 和也 / 里海レジャーダイビング×地域ガイド×食べる通信

活動の経緯

復興支援で三陸沿岸地域に関わったことをきっかけに釜石に根を下ろして新たなチャレンジをしたいと考え応募。ダイビング・観光・イベントを複合的に組み合わせ、三陸・釜石の豊かな海の魅力を発信を目指す。

活動内容

三陸の海の魅力を多くの人に伝えるため、地域の関係者との信頼関係を構築し。魅力の発見や自身の潜水技術の向上に取り組む。現在や地域のニーズにあった地域の観光ガイド事業と観光レジャーや海の環境保全に繋がる事業（里山レジャーダイビング）、そして地域の生産者と消費者を直接つなぐ大糧食べる通信(2019年3月より三陸食べる通信に改称)の3つのプロジェクトを連携し、事業創造に取り組む。



実施内容：受入先

■ 受入先：釜石ローカルベンチャーコミュニティ(起業型地域おこし協力隊)活動テーマ、内容

東谷 いずみ/ 商店街活性化×ゲストハウス

活動の経緯

実家が釜石市の隣の大槌町で民宿を営んでいたこと、震災で多くの人が支援で訪れる一方、地元の友人は地域外に流出しているという背景から、ゲストハウスを通してそこに住む人、外から訪れる人が集まるハブのような場所を作ることを目指す。

活動内容

まず、民泊運営から始め、地域に住む人々との関わり合いを大切に、「人と人、地域とつながる場づくり」の形としてゲストハウス開業に向けて2018年9月より活動開始。地方暮らしの一つの姿としてこの地でのチャレンジや帰郷に悩んでいる人の背中を押すきっかけづくりに取り組んでいる。



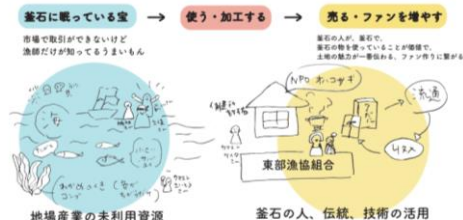
松浦 朋子/ 未利用資源活用×地域ブランドづくり

活動の経緯

利益追求の生活を見直したいと考え、今後の働き方を模索していたタイミングでローカルベンチャーズの制度を知った。自分のスキルや経験を活かすこと、釜石の地域ブランドづくりを目指す。

活動内容

よそ者として、外の目線から釜石を掘り下げ、地域発の商品やサービス開発をおこない「釜石のいいところを売っていく」事にチームで取り組んでいる。地域内にしか出回らない幻の「甲子柿」を、地域の方々の経済循環と共に商品として展開し、持続可能な生産の形を構築することを目指している。釜石で作られたことが「価値」になり、世界中の人が「釜石」を知るような釜石ブランドを確立し、多くの人が釜石に関わる仕組みづくりに取り組んでいる。



成果：概要

■ 達成したい状態（達成までの仮説）

- ・都市部の企業に勤める20～50代の会社員、人事担当者、人材開発担当者等の多様な参加者が、釜石でローカルベンチャー（起業型地域おこし協力隊）との地域課題解決プロジェクトを協働することにより、自身のマイプロジェクトを考え、形成。
- ・人・テーマ・場所を変えて地域課題解決プロジェクトに取り組むこと、釜石のチェンジメーカーとの対話等を通して、普段の自分からの思考等の解放を行い、チェンジメーカーとして必要な資質を身に着ける。
- ・マイプロジェクトを作成するにあたり、自分で意思決定をして、創造することにより、チェンジメーカーとしての必要な意思決定力と想像力を身に着ける。

■ 実際の達成度合い

- ・チェックイン前、フィールドワーク①後、フィールドワーク②後の3度EQ適性検査を実施。
測定したEQの変遷データでは、11個の項目で、大幅に数値が向上。また、チェンジメーカーの要素10個中8個の項目で大幅に能力UPを図った。
- ・参加者20名全員がマイプロジェクトを作成し、プログラム参加後のネクストアクションを設定。
うち2人が釜石での複業、2人が新規事業の社内立案、2人が未来の教室in釜石を企業研修として導入等の取り組みを開始した。
- ・また、プログラム参加後のアンケートで今後取り組みたいこととして、参加者の55%が地域での複業、25%が社内で新規事業立案をする意向があると回答するなど、**地域への関係人口創出、そして企業社内のイントラプレナー育成への効果が見られた。**
- ・アンケート結果でも、プログラム中に参加者に影響を及ぼしたコンテンツは「釜石での地域課題解決プロジェクト」が半数を占め、今後のキャリア形成を考えるに役立ったコンテンツに関しては「**マイプロジェクトの作成**」がもっとも多くの人から回答を得た。

■ 理由・改善/発展の方向性

- ・「釜石での地域課題解決プロジェクト」での能力開発とともに、**自身のキャリアを考える「マイプロジェクト」の作成**を並行して行ったことが本プログラムでの成果につながった。
- ・プログラムで参加者の伴走を行うメンターを育成し再現性を高める。

成果：詳細（EQ適性検査）

■EQ適性検査の変遷・要素の照合

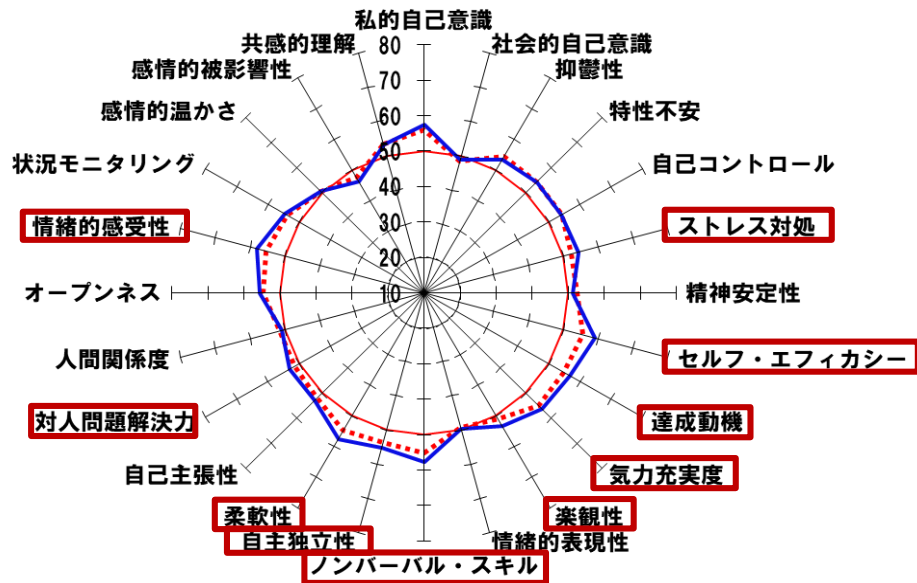
	チェンジメーカー要素	EQ素養	UP/DOWN
1	圧倒的な当事者意識（WILL・志）	自主独立性	1.5
		私的自己意識	1.3
2	課題発見力・設定力(Agenda Shaperとしての力)	私的自己意識	1.3
		社会的自己意識	0.5
3	課題解決力	達成動機	1.9
4	創造力(0から1を作る力)	柔軟性	2.9
		楽観性	2.5
5	基礎学力・基礎スキル		
6	自信/自己効力感/自己肯定感(コンフィデンス)	セルフエフィカシー	3.4
		精神安定性	0.1
7	遊び心(プレイフルネス)	気力充実度	1.6
8	多様性の中で協働する力(コラボレーション)	人間関係度	▲0.7
		情緒的感受性	2.7
		柔軟性	2.9
9	周囲を巻き込み動かす力(リーダーシップ)	対人問題解決力	1.7
		自己主張性	1.0
		自主独立性	1.5
10	果敢な失敗と回復力(レジリエンス)	抑鬱性	▲0.9
		特性不安	0.1
		ストレス対処	2.1

※赤字部分は
大幅にUPした箇所

成果：詳細（EQ適性検査）

■ 20名分のEQ変遷

- ・プログラム前後のEQ測定結果（チェックイン前、フィールドワーク②後）をグラフと表で示している。
- ・右グラフの赤点線部分はチェックイン前の結果であり、青線部分はフィールドワーク②の後の結果である。
- ・下記表は、1回目はチェックイン前の結果であり、3回目はフィールドワーク②の結果の詳細データである。
特に変化をしている数値(1.5ポイント以上)を赤線で囲んでいる。



	私的自 意識	社会的自 意識	抑鬱性	特性不安	自己 コントロール	ストレス 対処	精神 安定性	セルフ エフィカシー	達成動機	気力 充実度	楽観性	情緒的 表現性
1回目	56.1	48.4	54.5	54.1	54.2	52.2	52.4	55.7	54.8	54.8	51.0	49.4
3回目	57.4	48.9	53.5	54.2	54.1	54.4	51.3	59.1	56.6	56.4	53.5	49.7
差異	1.3	0.5	-0.9	0.1	-0.1	2.1	-1.1	3.4	1.9	1.6	2.5	0.4

	ノンバー バル スキル	自主 独立性	柔軟性	自己 主張性	対人問題 解決力	人間 関係度	オープ ンネス	情緒的 感受性	状況 モニタリ ング	感情的 温かさ	感情的 被影響性	共感的 理解
1回目	55.3	53.9	54.8	52.1	51.5	51.7	54.8	55.5	53.8	50.3	47.7	53.4
3回目	57.8	55.3	57.7	53.1	53.2	51.0	55.8	58.2	54.6	50.5	46.2	53.4
差異	2.6	1.5	2.9	1.0	1.7	-0.7	1.0	2.7	0.8	0.2	-1.6	0.0

■ EQ変遷 考察

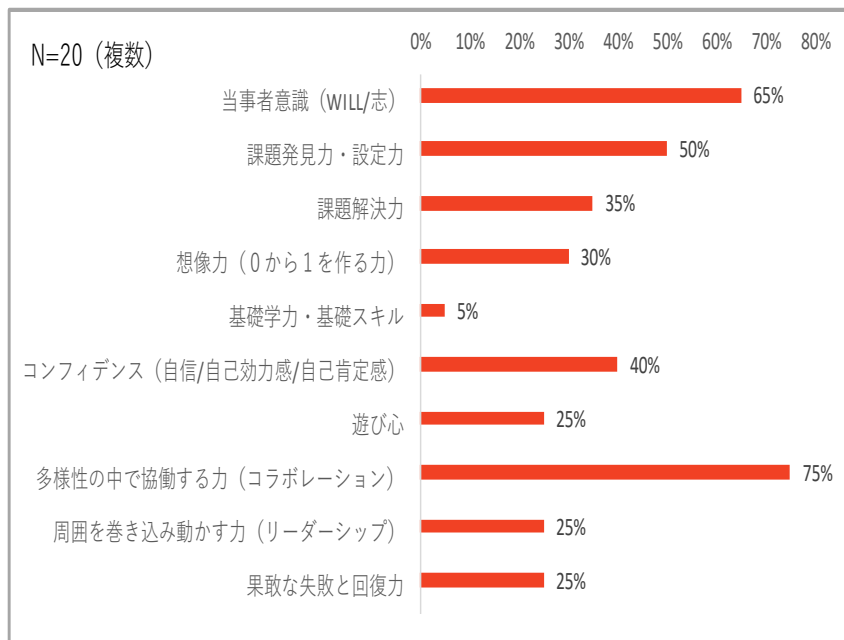
- ・元々、行動量の多い(高い)集団ではあるが、さらに全体的に行動量は増えている。
特にモチベーション領域、積極領域の行動量が増えている。
- ・グループでのコミュニケーションや現地での出会いなどの影響により、もともと高い“情緒的感受性(相手の気持ちを敏感に察知する)”がより高まっている。
- ・モチベーション領域が高まることで、情緒的感受性は高まっているが、感情的被影響性(人の感情への巻き込まれ易さ)は下がっている。
- ・新しい環境で新しいことに取り組む中で“精神安定性”が若干下がっている。
ただ、“精神安定性”が低いというのは“慎重さ”が高いとも捉えられるため、よい傾向と捉えることも出来る。

成果：詳細（アンケート集計結果・習得した能力と成長ポイント）

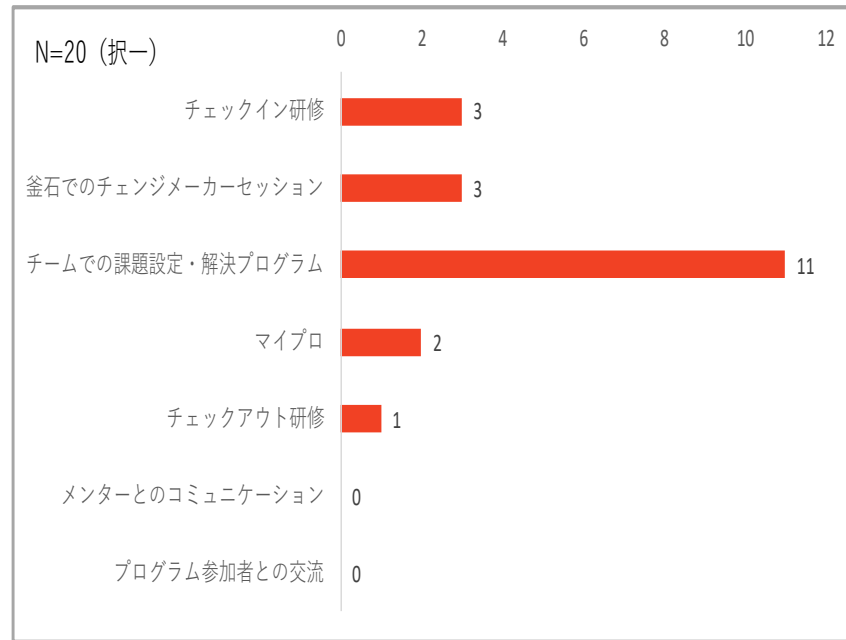
■ 考察

- 参加者の多くがチームでの地域課題解決プロジェクトによって当事者意識や多様性の中で協働する力が高まったと感じている。

習得した能力



もっとも成長に繋がったプログラム



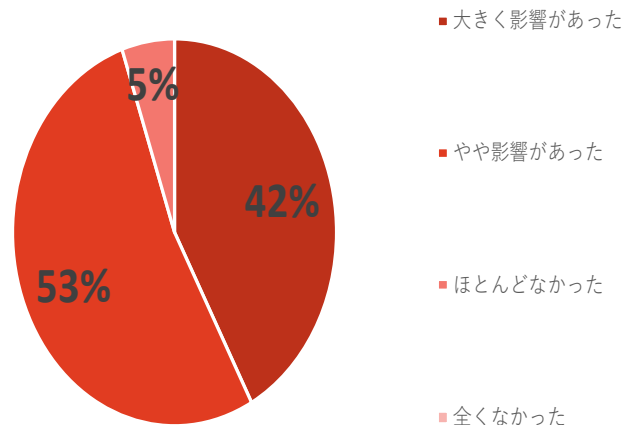
成果：詳細（アンケート集計結果・今後のキャリアへの影響）

■ 考察

・参加者のほとんどがマイプロジェクトによって、今後のキャリアに影響があったと答えており、マイプロジェクトの形成が参加者の今後に大きく影響していると考えられる。

キャリアへの影響

N=19 (択一)



もっとも影響があったプログラム（「1」「2」回答者）

N=17 (択一)

